

懇談会の内容

【農産物チームの提案】

●農産物チーム代表：池田 正恵さん

中野市ではおいしい果物やきのこなどの農産物がたくさん生産されています。生産量も美味しさも全国トップクラスで、中野市の自慢の一つです。私たちの住む豊田地区では、リンゴやお米のほか、伝統野菜のぼたんこしょうが栽培されています。

そこで、それらを生かしたアイデア料理をもっと増やし、発信し、売り出してはどうでしょうか。そうすることによって特産物の魅力が伝われば、生産量と収入が増え、さらに、若い人たちにも農業に興味をもってもらえるのではないのでしょうか。

市長の回答

中野市では、地元食材を地元で消費することを目的に、中野市の特産物を使ったメニューをいくつも考案し実際に作ってみるという料理講習会を開催しており、去年は38回目の開催にして千人を超える方々に参加していただきました。また、こういった取り組みを発信し、市外の方にも中野市について知ってもらうことで、中野市農産物の消費拡大を図っています。

今後もこの取り組みをはじめ、Vtuberの「信州なかの」ちゃんにも中野市の魅力について多岐にわたりYouTube等で発信していってもらいます。信州なかのちゃんがラッピングされた痛車もありまして、その車を走らせることで、中野市及びなかのちゃんのファン作りをしつつ、りんごやシャインマスカット、えのきたけなど、中野市の特産物の宣伝も兼ねています。

豊田地区で栽培が盛んなぼたんこしょうですが、旬の夏の時期には長野県と山梨県の一部コンビニエンスストア限定でぼたんこしょうを取り入れたオリジナル商品を販売しており、市外へのネットワークを作りつつ特産品の魅力を発信しています。そこから少しずつ、若い人たちにも農業に興味をもってもらい、次世代へと繋いでいきたいと考えています。農産物チームの提案は非常に素晴らしいものでした。

【雪自然チームの提案】

●雪自然チーム代表：割田 大翔さん

中野市にはたくさんの雪が降ります。雪かきなど大変さもありますが、子どもたちが雪で遊んでいるところもたくさん見ます。また、雪のない地域にとって、雪は大きな魅力の一つです。雪があるからこそできるスポーツもあります。

そこで、中野市をウィンタースポーツの拠点にしていってはどうでしょうか。新しいウィンタースポーツもたくさん生まれてきているため、そういったスポーツを気軽に体験できる施設などを建てれば、世界中から人が集まり、時に選手と触れ合うこともできるかもしれません。また、僕たちのような子どもがそういった豊かな経験をすることで、ウィンタースポーツをいつまでも残すことにもつながるのではないのでしょうか。

市長の回答

このあたりは、確かに冬になると雪がたくさん降りますね。斑尾高原も冬季は特にウィンタースポーツが盛んで、海外からの観光客も多いです。

ちょうどここから車で5分くらいの場所に、タカギセイコーふるさとパークという、400メートルトラックとサッカー場を兼ねたグラウンドとアリーナが併設された運動施設があります。クロスカントリーの練習も可能です。このように多様なスポーツに対応した施設も設置していますので、ウィンタースポーツについても、まだ新しい競技等含め様々な体験できるように幅を広げていく必要があると感じています。

日本は四季ですので、春、夏、秋と、雪の降らないシーズンがあります。それを踏まえて、現在、市ではアーチェリー場のオープンに向けて準備を進めており、7月21日にいよいよオープンします。たまたまアーチェリーのオリンピック選手とのご縁もありましたので、そういった方たちとアーチェリーという競技の認知を広めつつ、冬以外のシーズンにも中野市に足を運んでもらえたらと考えています。

冬はウィンタースポーツ、オールシーズンでアーチェリーや信濃グランセローズ（野球）といったように、多種多様なスポーツを通して人と人の交流人口を増やせれば、中野市の魅力向上に繋がり、住んでみたいという方も増えるのではないかと思います。ですから、市で現在進めていることは、雪自然チームの提案のいわゆる応用編といえます。

『世界中から人が集まれば、スポーツ選手との交流も望める』という点は、みなさんの提案とこちらの考えとで共通している部分ですね。

【温泉チームの提案】

●温泉チーム代表：神田 瑛太さん

中野市にはたくさんの温泉施設があります。温泉は心と体がリラックスできるものです。豊田地区にも「もみじ荘」や「まだらおの湯」があります。

温泉施設をもっと利用してもらうために、いま流行りのサウナと温泉、キャンプ施設と温泉、食べ物と温泉などといったように、温泉に別の要素を組み合わせるみてはどうでしょうか。また、施設内に子どもの遊び場を増やせば、子どもが遊んでいる間に大人もリラックスできるのではないのでしょうか。温泉の良さを外国人へアピールするチャンスとなるため、世界から中野市に注目が集まり、市の人口増加にもつながるのではないのでしょうか。

市長の回答

温泉に入ると気持ちをリフレッシュできますし、健康にもいいですね。

今、中野市には温泉施設が4か所あり、そのうち市で直営しているのが1か所、民間で運営しているのが1か所、市から民間に譲渡し、運営していただいている施設が2か所です。

サウナ+温泉、キャンプ施設+温泉などの案は、ただ温泉に入るだけでなく、ゆっくりくつろいでから温泉に入って、あがったらまたのんびりして、と自分なりの楽しみ方を見つけられそうなので、多くの方に興味をもってもらえると思います。温泉と遊び場という

組み合わせも非常に面白いですね。2つの要素を複合的に重ねることによって、また違う楽しみも生まれてくることと思います。これは非常に素晴らしい提案です。それぞれの温泉施設の方々に、こちらからまたお話をしておきます。

提案理由の中に、温泉施設を利用してくれる人が増える・温泉の魅力を外国人にもアピールできるチャンスになる、とありました。海外から来られる方が昨今は大都市に集中していますが、周辺だと地獄谷には毎月大体2万人もの観光客が訪れていますし、白馬や野沢温泉も観光地として有名ですので、やはり温泉は外国人にとっても魅力のあるコンテンツだと思います。そこへ加えてキャンプ場もセットとなれば、キャンプ好きの方にも来ていただけますね。この辺りは特に緑豊かで、北信五岳と、東の方に志賀高原が見え、高社山もありますね。外国から来た方にとっても非常に体験価値が高く、素晴らしい提案だと思いますので、このことにつきましても伝えてみたいと思います。

【湯本市長にお願いしたいこと】

※以下、教育次長回答。

●小橋 瞳衣さん

豊田小学校の教室には水道がなく、不便です。教室内に水道を設けることはできないでしょうか。

教育次長の回答

施設整備は教育委員会が担当しているので、お話をさせていただきます。

皆さんは今6年生ですが、この学校が新しく開校したのが令和3年の4月なので、皆さんは3年生の時にここに来たことになりますね。豊井小と永田小のときには、もしかしたら教室に水道があったかもしれません。今は、教室から廊下の水道までの距離が遠いことに不便を感じている子もいると思います。私もこの会が始まる前に教室から水道まで歩いてみましたが、確かに結構遠いですよね。

ここの校舎を建てるために多くの人がかかわり、いろいろな人の意見を聞いてつくられました。そして、やはり大変なお金がかかった施設です。感じている方もいるかと思いますが、豊田小学校の体育館はとても広いです。中学校の体育館より広いですね。ここは小学校と中学校が同じ敷地内にあるため、中学生の子も使えるようにと広い体育館を作りました。これは、生徒数の多い南宮中学校の体育館と同じぐらいの広さです。

ということで、体育館の整備にも、もちろん学校舎を作るのにも、大変お金がかかっています。皆さんが今使っている教室も、昔の校舎に比べて大分広くなっています。そういったことを総合的に判断したうえで、教室には残念ながら水道をつけていません。皆さんの遠くて大変だというお声はよくわかりますが、今から教室に水道をつけるのは非常に難しいです。ですので、助け合い、工夫をしながら使っていきたいと思います。

今回、貴重な意見をいただけたので、また次の機会がありましたら、水道のこともよく考えて作りたいと思います。

●山室 結梨さん

通学路でクマの目撃情報が多数あります。低学年の子が一人で歩くところもあります。とてもこわいので、バス通学を多くするなど、早急に対応をお願いします。

教育次長の回答

皆さんのうち半分くらいはスクールバスで通っていらっしゃると思います。そのほかの方は歩いて帰っていますね。ですがバス通学の方も、バスに乗るまでの間、家からバス停までは歩いていますよね。そのことも含めて、低学年の子たちへの心配も募っていることと思います。

教育委員会にも、クマ、イノシシ、サルなど様々な動物の目撃情報について、豊田地区を含め市内各地から報告が入ってきます。学校とも連絡を取り合い、危険な時には集団下校をしていただいたり、場合によっては保護者の方に迎えに来ていただいたりと、対応をしています。それがまず大前提です。

また、国の基準で、小学校から4キロ以上離れている家庭のお子さんはバス通学が可能、それより近いところに住むお子さんは原則徒歩、というルールがあります。そして中野市では、本来4キロのところを基準距離3キロと定めています。その基準を更に縮めるということは、またしても大変お金のかかる話で、皆さんが心配してくださる気持ちはよくわかりますが、今の豊田小のスクールバスにもっと近い子も乗せるのは非常に難しいです。

危険なことがないように、教育委員会も学校の先生方と連携しつつ皆さんの安全に十分配慮しています。皆さんも下校の際は、危ないところがないかどうかよく気をつけながら帰っていただくよう、お願いします。